

リハビリテーション学科

【科目名】 障害者・障害児心理学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、障害児・障害者の疾患への理解とその支援法について講じていきます。将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。本科目は公認心理師試験の出題基準における指定科目です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多種多様な障害のある人に心理的な支援を提供するにあたり、障害者・障害児の身体機能及び精神機能に関する基本的な医学・生理学的及び心理学的知見を習得することを目的とする。また、障害者・障害児及びその家族等の“こころ”をも推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていく。当該科目と学位授与方針との関連性; R-2</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。</p>		
<p>【参考書】</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ	0							0
	発表力	0		20					20
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲		障害の分類 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF)	
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法		障害受容 二次障害 エビデンスに基づく障害支援	
3	身体障害 _視覚障害 障害の理解		盲 弱視	
4	身体障害 _視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)		点字 歩行 バーバリズム ブラインディズム	
5	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解		聾 難聴(伝音性/感音性)	
6	身体障害 _聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		言語の発達 コミュニケーション障害 補聴器 人工内耳 手話	
7	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解		発声・発語器官 構音障害 脳機能と言語 吃音 発達障害	
8	身体障害 _音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)		食べる機能の障害	

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援		母子保健 乳幼児健診 早期発見と療育 保育園・幼稚園での支援	
10	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し		就学相談（支援）	
11	身体障害 肢体不自由 障害の理解		・脳性まひ ・随伴障害 ・重複障害、重症心身障害	
12	身体障害 肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）		・早期療育 ・自立支援 ・訪問教育	
13	身体障害 内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）		・心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害 ・膀胱、直腸、小腸の機能の障害 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害	
14	身体障害 内部障害 適切な支援（家族支援を含む）		・医療的ケア ・ホスピタリズム ・ターミナル・ケア	
15	まとめ			